

成田 昌彦（なりた・まさひこ）

1、プロフィール

雑誌「月刊評論」の創刊者。演劇、評論を中心に、八戸の文化育成に力を尽くすが、37歳で没。

<生没>

1907(明治40)年～1944(昭和19)年

<代表作>

「月刊評論」

<青森との関わり>

八戸市に生まれる。大学卒業後地元に戻り、最初の総合雑誌を発刊、地方文化育成に努めた。

2、作家解説

明治40年八戸市徒士町に生まれる。父昌治は教育者、祖父芳男は自由民権運動家であった。八戸中学校では校友会誌「玉銚」に詩や創作を発表した。また、詩誌「灰皿」を発行した。同人に石橋正一郎、三浦惣三郎がいる。大正15年早稲田大学国文科に進み、演劇活動に没頭、演劇研究会の中心となった。昭和5年八戸に戻り、下斗米謹一、川口英次郎らと八戸公共小劇場を結成、演劇指導を行う。

八戸毎日新聞社の記者を経て、昭和12年4月雑誌「月刊評論」を発刊した。地方文化を発掘することにより日本文化の本流を探ることをねらいとし、政治経済、文化の幅広い分野にわたる総合雑誌であった。しかし創刊から7年4ヶ月の昭和19年8月、雑誌統合整理により、「月刊評論」は8月号をもって終刊した。以後「月刊東北」として発行所も仙台河北新報社に移された。創刊者成田昌彦は同年5月36歳で没。

八戸番町にあった月刊評論社印刷部は中央印刷株式会社となる。

3、資料紹介

○「月刊評論」

雑誌

1937(昭和 12)年～1944(昭和 19)年

260 mm × 180 mm

昭和 12 年 4 月成田昌彦が創刊した総合雑誌。A4 版三色オフセット印刷。7 年 4 ヶ月続いたが、昭和 19 年 8 月雑誌統合により第 8 巻 7 号をもって終刊となる。以後河北新報社と合併し「月間東北」として引き継がれる。